

- 問1 古代の律令制度において、戸籍に基づいて人々に割り当てられた「口分田」に関連し、その土地の面積に応じて収穫した稲を納める義務があった税の名称を答えなさい。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. 租 2. 庸 3. 調 4. 公事
- 問2 奈良時代に大伴家持によってまとめられたとされる、日本に現存する最古の和歌集は何ですか。天皇から、九州の警備にあたった防人に至るまで、幅広い階層の人々の歌が収録されていることで知られています。 (2026年 島根県公立入試 類似)
1. 新古今和歌集 2. 万葉集 3. 古今和歌集 4. 懷風藻
- 問3 奈良時代の律令制において、男女ともに負担することが義務づけられていた、田の面積に応じて収穫された稲を納める税を何と呼びますか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 雑徭 2. 租 3. 庸 4. 調
- 問4 奈良時代には律令制度に基づき、人々に「口分田」を割り当てる仕組みがありましたが、人口の増加によって分け与える土地が不足する事態となりました。この課題を解決し、土地の開墾を促すために聖武天皇が743年に出した、新しく開墾した土地の永久的な私有を認める法令を何といいますか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 公地公民の制 2. 班田収授法 3. 墾田永年私財法 4. 三世一身の法
- 問5 古代から現代にかけての日本の主要な港の歴史をまとめた資料において、7世紀や8世紀にその付近に「難波宮」と呼ばれる宮殿が置かれ、外交や物流の拠点として機能していたことが示されている港の名称は何ですか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 難波津 2. 神戸港 3. 博多港 4. 坊津
- 問6 奈良時代の都について書かれた発表メモの中に、「中国の影響を受けた国づくりが進められる中で、都に大仏が建立された」という記述があります。この大仏が建立された東大寺が位置する都の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
1. 日本で初めて、周囲を城壁で囲った本格的な中国式の都として造られた。 2. 貴族の権力争いを避けるために、現在の京都市に新しく建設された。 3. 唐の都である長安を模してつくられ、国際色豊かな文化が栄えた。 4. 当時の天皇が、軍事的な拠点とするために大阪の湾岸部に設置した。
- 問7 『万葉集』に収められた和歌の表記方法や、詠み手の構成に関する説明として正しいものはどれですか。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
1. すべて漢文の形式で記述されており、遣唐使として唐に渡った留学生や僧侶たちの体験を詠んだ歌が中心となっている。 2. カタカナを用いて当時の口語に近い形で記録され、主に寺院で修行する僧侶たちが仏教の教えを広めるために詠んだ歌が多い。 3. 平仮名を用いて日本語の繊細な感情が表現され、天皇や貴族による洗練された和歌のみが厳選して収められている。 4. 漢字の音や訓を用いて日本語の音を表現する万葉仮名が使われ、貴族から防人、農民まで幅広い階層の歌が収められている。
- 問8 白村江の戦いでの敗戦が、その後の日本の対外関係や文化交流に与えた影響についての記述として最も適切なものを選びなさい。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 朝鮮半島での影響力を強めた日本は、北路と南路の両方を自由に使い分けて遣唐使を派遣した。 2. 唐や新羅との関係悪化により安全な北路が使えなくなり、遣唐使は危険な南路を通ることを余儀なくされた。 3. 唐との国交が完全に断絶したため、遣唐使の派遣そのものが廃止され鑑真らの来日も阻止された。 4. 新羅が日本を支配下においたため、遣唐使は新羅の許可なしに航行することができなくなった。
- 問9 8世紀頃の讃岐国（現在の香川県）において、地方政治の拠点であった「讃岐国府」のような役所を中心に行われた統治体制の説明として、適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。 2. 各地の有力な豪族が藩主となり、中央政府の干渉を受けることなく独自の法律や税制を用いて領地を統治した。 3. 中央から派遣された郡司が、現地の有力者である国司を指導することで、都の文化や制度を全国に広めた。 4. 武士の棟梁が地方ごとに地頭を派遣し、現地の豪族であった郡司に代わって土地の管理や警察権を行使した。
- 問10 奈良時代の743年、朝廷は新しく開墾した土地の永代私有を認める「墾田永年私財法」を制定しました。この法令が出された背景として、当時の社会状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 公地公民の原則をより強化し、すべての土地を国が直接管理することで、農民の負担を軽減しようとした。 2. 班田収授法によって口分田が余りすぎたため、余った土地を貴族や寺院に分け与えて管理を任せることにした。 3. 仏教の力で国を安定させるため、聖武天皇が全国に国分寺を建てる用地を強制的に徴収しようとした。 4. 人口が増加したことにより、政府が農民に割り当てる口分田が不足し、食料確保のための土地開発が必要になった。
- 問11 710年に藤原京から平城京へと遷都が行われた背景や目的について、当時の国家体制の仕組みと関連させて説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2021年 静岡県公立入試 類似)
1. 律令に基づいた天皇中心の中長集権的な政治体制を、国内外に誇示するために、より大規模で威容のある都が必要とされたため。 2. 僧侶の政治介入を防ぐために、東大寺などの有力な寺院を都の郊外に強制的に移転させ、政治と宗教を分断するため。 3. 遣唐使の派遣を停止し、日本の独自の風土に合った国風文化を醸成するために、大陸の影響を受けない新しい都を求めたため。 4. 東北地方の蝦夷に対する征討を進めるにあたり、軍事拠点としてより北方に位置する奈良の地が地理的に有利であったため。
- 問12 奈良時代、日本の僧からの要請を受け、遣唐使の船を利用して5度の渡航失敗や失明という苦難を乗り越えて来日した唐の僧侶は誰ですか。来日後は正式な仏教のルールである「戒律」を伝え、後に唐招提寺を建立しました。 (2026年 茨城県公立入試 類似)
1. 最澄 2. 鑑真 3. 空海 4. 行基
- 問13 奈良時代末期にまとめられた日本最古の歌集である『万葉集』の特色として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 平安時代の中期に、平仮名を用いて女性の心情を細やかに表現している。 2. 武士の台頭を背景に、力強い歌風の和歌を中心に集められている。 3. 醍醐天皇の命令によって編集された、最初の勅撰和歌集である。 4. 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 租	律令国家では班田収授の法により、6歳以上の男女に口分田が与えられました。この土地の面積（段数）に応じて、収穫した稲の3%程度を納める税が「租」です。これに対し、地方の特産物を納めるのは「調」、都での労役の代わりに布を納めるのは「庸」と呼ばれます。
問2	答え 2 万葉集	奈良時代の天平文化を代表する作品で、万葉仮名と呼ばれる漢字を用いた表記で記されています。貴族だけでなく、庶民や防人など多様な階層の人々の歌が約4,500首も収められており、当時の人々の感情や生活、地域ごとの方言などを知るための貴重な史料となっています。選択肢にある『懷風藻』は、日本最古の漢詩集である点に注意しましょう。
問3	答え 2 租	奈良時代の税制において、田の面積に応じて収穫した稲を納める税は租と呼ばれ、男女ともに負担しました。調は地方の特産物、庸は都での労役に代わる布を納める税です。
問4	答え 3 墾田永年私財法	律令国家の基本原則である「公地公民」のもとでは、土地はすべて国家のものとしていましたが、人口増加に伴う「口分田」の不足が深刻化しました。そこで、政府は人々の開墾意欲を高めるために、苦勞して切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」を制定しました。これが後に、貴族や寺院による大規模な私有地である「荘園」が広がるきっかけとなりました。
問5	答え 1 難波津	現在の大阪市付近に位置する難波津は、瀬戸内海航路の終点として古くから栄えた港です。大化の改新後の孝徳天皇や、奈良時代の聖武天皇によって難波宮が造営されるなど、政治的・経済的に極めて重要な役割を果たしていました。中世に栄えた坊津や、近代以降に発展した神戸港とは、中心となった時代が異なります。
問6	答え 3 唐の都である長安を模してつくられ、国際色豊かな文化が栄えた。	平城京は、唐の都（長安）をモデルに建設され、遣唐使によってもたらされた大陸の文化が花開きました。この時期の文化は天平文化と呼ばれ、聖武天皇による東大寺の大仏建立など、仏教による国家の安定（鎮護国家）を目指した政策が特徴です。現在の京都市に建設されたのは平安京であり、大阪の湾岸部は難波宮などの解説にあたります。
問7	答え 4 漢字の音や訓を用いて日本語の音を表現する万葉仮名が使われ、貴族から防人、農民まで幅広い階層の歌が収められている。	『万葉集』が編纂された奈良時代には、まだ平仮名や片仮名が成立していなかったため、漢字を本来の意味に関わらず日本語の音に当てはめて表記する「万葉仮名」が用いられました。また、天皇や貴族だけでなく、九州の警備にあたった「防人（さきもり）」の歌や、東国の人々の生活を詠んだ「東歌（あずまうた）」など、多様な民衆の歌が収録されている点が、後の勅撰和歌集にはない大きな特徴です。
問8	答え 2 唐や新羅との関係悪化により安全な北路が使えなくなり、遣唐使は危険な南路を通ることを余儀なくされた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本は、両国との関係が悪化したため朝鮮半島沿岸の「北路」を通れなくなりました。そのため、遭難の危険が高い東シナ海を横断する「南路」で遣唐使を派遣するようになり、鑑真の渡航難航などの試練につながりました。
問9	答え 1 中央から派遣された官吏が、地域の有力豪族を実務担当者に任命し、戸籍の作成や租税の徴収を管理した。	国府は、都から派遣された国司が執務を行う地方行政の中心地でした。ここで国司は、現地の豪族から選ばれた郡司を指導し、律令に基づいた統治を行いました。郡司は代々その土地を治めてきた豪族が任命されたため、土地の事情に精通しており、国司はその影響力を利用して徴税などを効率的に進めました。守護や地頭が設置されるのは後の鎌倉時代であり、藩主による統治は江戸時代のことであるため、律令時代の国司・郡司の仕組みとは異なります。
問10	答え 4 人口が増加したことにより、政府が農民に割り当てる口分田が不足し、食料確保のための土地開発が必要になった。	奈良時代には人口が増え、戸籍に基づいて人々に配る「口分田」が足りなくなりました。これに対し政府は、まず723年に「三世一身の法」を出して開墾を促しましたが、私有期限があったため効果が限定的でした。そこで743年にこの法を定め、開墾した土地を永久に自分のものにして良いと認めることで、人々が自発的に田地を増やすよう促しました。この結果、公地公民の原則が崩れ、後の荘園形成へとつながる大きな転換点となりました。
問11	答え 1 律令に基づいた天皇中心の中長集権的な政治体制を、国内外に誇示するために、より大規模で威容のある都が必要とされたため。	律令国家の確立期において、都は単なる住居の集合体ではなく、天皇の権威を示す象徴としての役割を担っていました。そのため、当時の先進国であった唐の都（長安）を模範とし、整然とした区画を持つ平城京を建設することで、対外的にも日本の国家体制が整ったことをアピールする目的がありました。
問12	答え 2 鑑真	当時の日本では、僧侶になるための公的な基準が曖昧であり、税を逃れるために勝手に僧を名乗る者が増えるなどの問題がありました。そこで、唐から正式な「戒律」を受けられることができる高僧として招かれたのが鑑真です。彼は度重なる遭難で視力を失いながらも、不屈の精神で来日を果たし、日本の仏教制度の整備に大きく貢献しました。
問13	答え 4 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。	奈良時代の文化を代表する『万葉集』は、約4500首の和歌を収録した日本最古の歌集です。山上憶良のような貴族や歌人だけでなく、東国の農民の歌（東歌）や、九州の警備に当たった人々の歌（防人の歌）など、身分を問わず当時の人々の素直な感情が詠み込まれている点が最大の特徴です。